
2026年3月期 決算説明会 中期経営計画説明会

2026年4月30日
株式会社エンプラス
(東証プライム 6961)

目次

決算概況

- 2026年3月期 決算説明

中期経営計画 -2nd roll-

- 振り返り -1st roll-
- 長期ビジョン／中期経営方針(2027/3期-2029/3期)／財務目標
- 中期経営方針に基づく重点推進事項
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗状況
- 事業戦略

2027年3月期 業績見通し

決算概況

決算のポイント

2026年3月期 損益実績 **増収増益**

- 前年同期比で**大幅増収増益**。1月の想定通りの着地

Semiconductor事業 **増収増益**

- サーバー用途、自動車用途、モバイル用途の需要が**大幅に増加**
- 汎用サーバー**の回復、**AI用サーバー**向けの大手GPUメーカーに加えて、ハイパースケーラー向けの**ASIC関連**が増加。車載SoCは、新規顧客向け売上拡大。モバイル用途は、スマートフォン向けの開発案件が好調。

Life Science事業

- 一部量産品の生産終了に伴い2Qは一時的に販売が増加(7月想定から変更なし)

Digital Communication事業

- 1.6T光トランシーバー用レンズの**量産開始**
- レンズコネクタ関連の新規製品の立ち上げ遅延(2027/3期 1Q立ち上げの見通し)

Energy Saving Solution事業 **増収増益**

- 自動車用部品は、当社が注力する**低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスの拡販**により堅調
- プリンター市場が低迷する中、**5期連続増収**を達成。

2026年3月期 連結損益実績

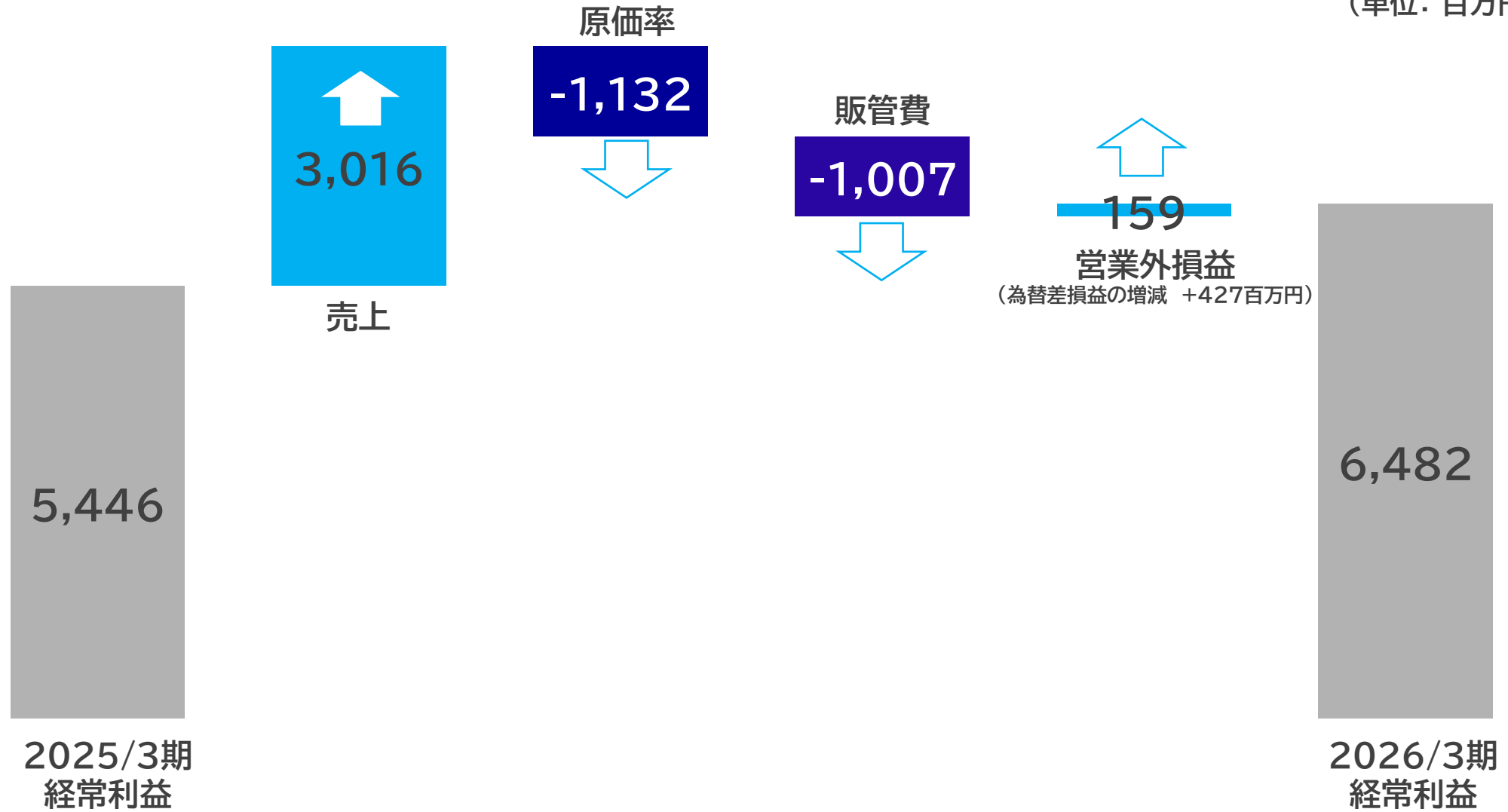
(単位: 百万円)

	2025/3期	2026/3期	
	実績	実績	増減
売上高	38,069	42,540	+11.7%
売上原価率	54.1%	54.5%	+0.4pt
営業利益	5,287	6,164	+16.6%
営業利益率	13.9%	14.5%	+0.6pt
経常利益	5,446	6,482	+19.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,943	5,233	+32.7%
自己資本当期純利益率(ROE)	7.4%	8.9%	+1.5pt
1株当り当期純利益	446.47円	587.90円	+141.43円
期中平均レート(US\$)	152.47円	150.94円	-1.53円
配当金	70.00円	90.00円	+20.0円

為替感応度(US\$):売上高 約200百万円/年、営業利益 約150百万円/年

経常利益の増減分析

(単位: 百万円)



2026年3月期 セグメント別実績(連結)

(単位: 百万円)

		2025/3期	2026/3期	増減
		実績	実績	
Semiconductor	売上高	16,123	23,603	+46.4%
	売上原価率	52.4%	46.7%	-5.7pt
	営業利益	1,529	4,974	+225.2%
Life Science	売上高	3,054	3,083	+1.0%
	売上原価率	55.3%	63.5%	+8.2pt
	営業利益	453	432	-4.5%
Digital Communication	売上高	4,893	1,652	-66.2%
	売上原価率	23.6%	51.5%	+27.9pt
	営業利益	2,484	-284	-
Energy Saving Solution	売上高	13,998	14,201	+1.4%
	売上原価率	66.5%	65.8%	-0.7pt
	営業利益	820	1,041	+26.9%

連結四半期損益実績推移

(単位: 百万円)

	2025/3期	2026/3期			
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	9,264	8,999	11,901	11,473	10,166
売上原価率	55.0%	55.7%	55.2%	52.2%	55.2%
営業利益	1,203	905	2,145	2,149	963
営業利益率	13.0%	10.1%	18.0%	18.7%	9.5%
経常利益	1,135	825	2,255	2,297	1,104
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,071	362	1,884	1,629	1,357
1株当り四半期純利益	121.26円	41.03円	212.93円	182.78円	150.72円

参考:セグメント別四半期損益実績推移(連結)

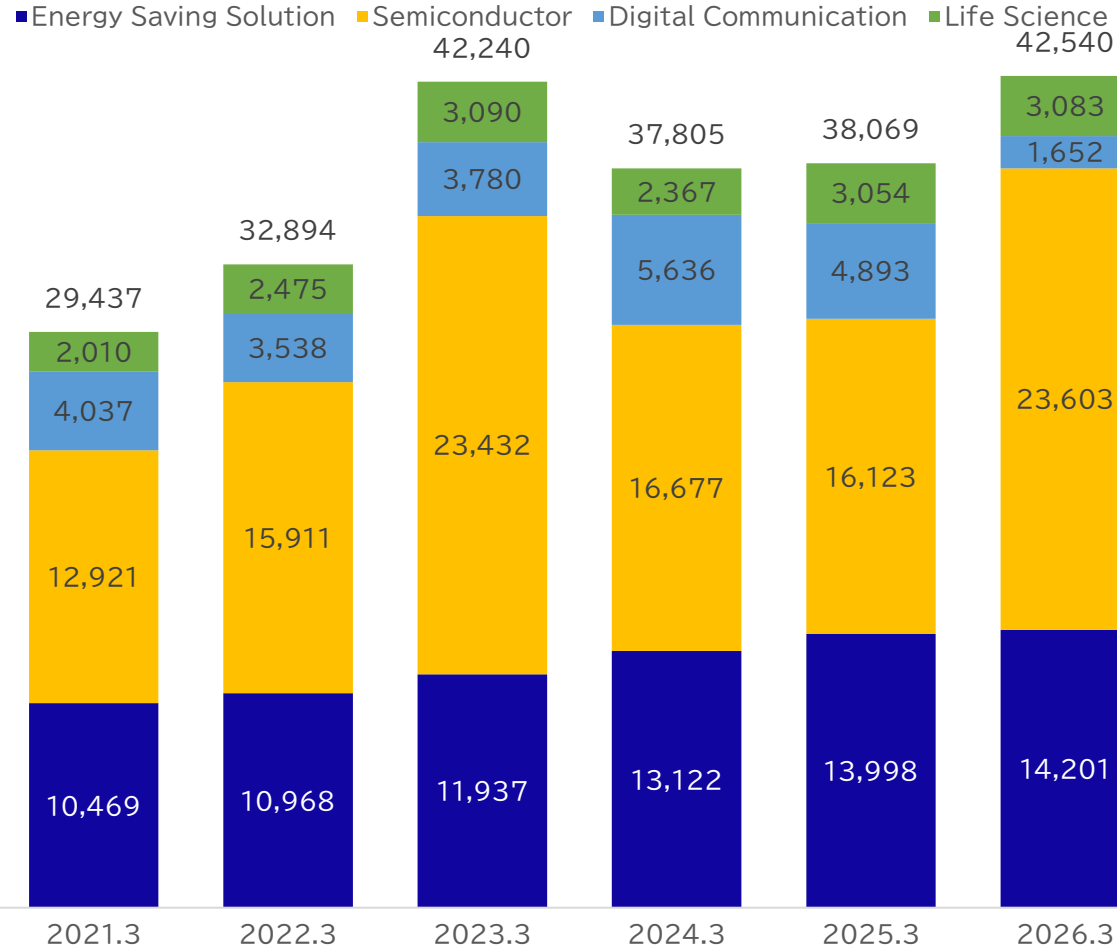
(単位: 百万円)

		2025/3期	2026/3期			
		4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
Semiconductor	売上高	4,136	4,888	5,797	7,166	5,751
	売上原価率	52.8%	48.5%	45.7%	45.0%	48.4%
	営業利益	420	866	1,412	1,880	815
Life Science	売上高	944	516	2,104	262	200
	売上原価率	40.3%	61.6%	62.9%	72.3%	63.5%
	営業利益	326	-10	546	-51	-52
Digital Communication	売上高	784	420	365	383	481
	売上原価率	30.5%	52.7%	58.6%	42.4%	52.3%
	営業利益	262	-43	-107	-10	-122
Energy Saving Solution	売上高	3,398	3,173	3,634	3,661	3,731
	売上原価率	67.4%	66.1%	65.6%	66.1%	65.6%
	営業利益	195	92	294	331	323

参考：連結損益実績

<売上高の推移>

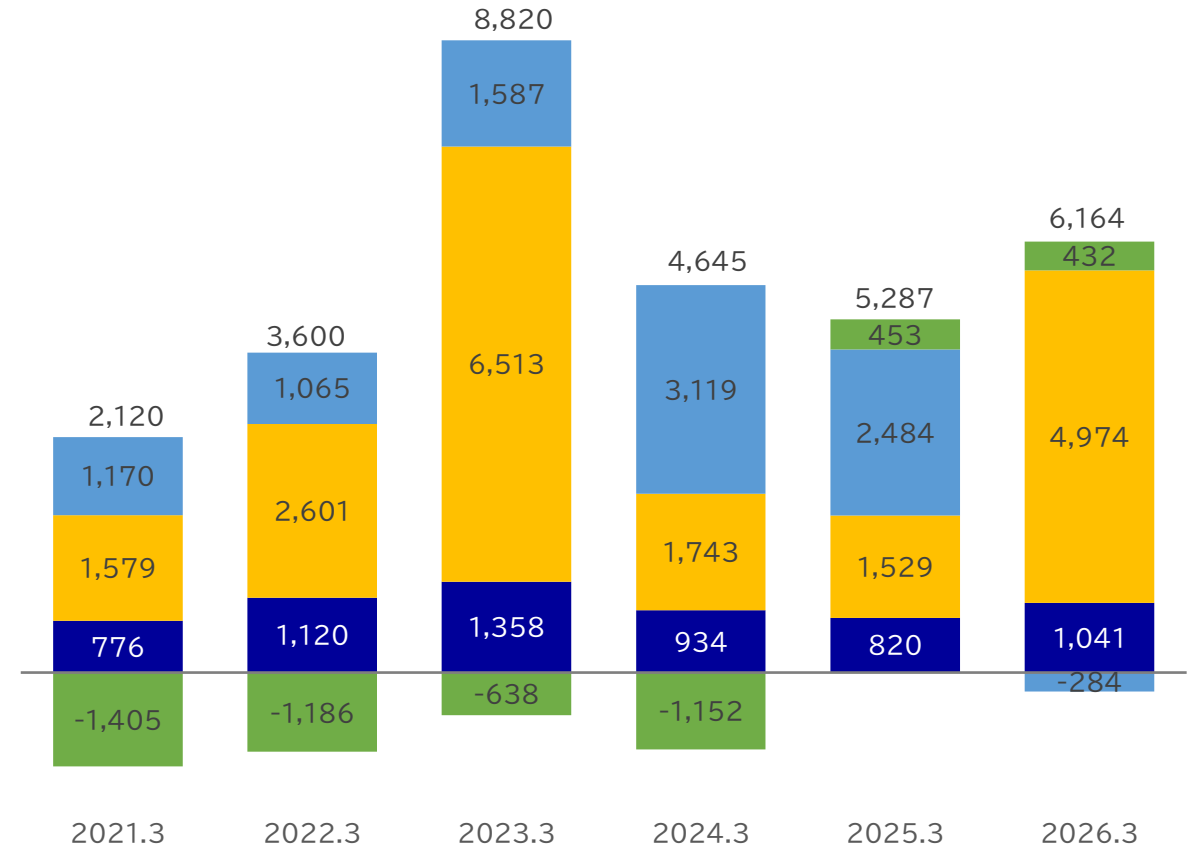
(単位：百万円)



<営業損益の推移>

(単位：百万円)

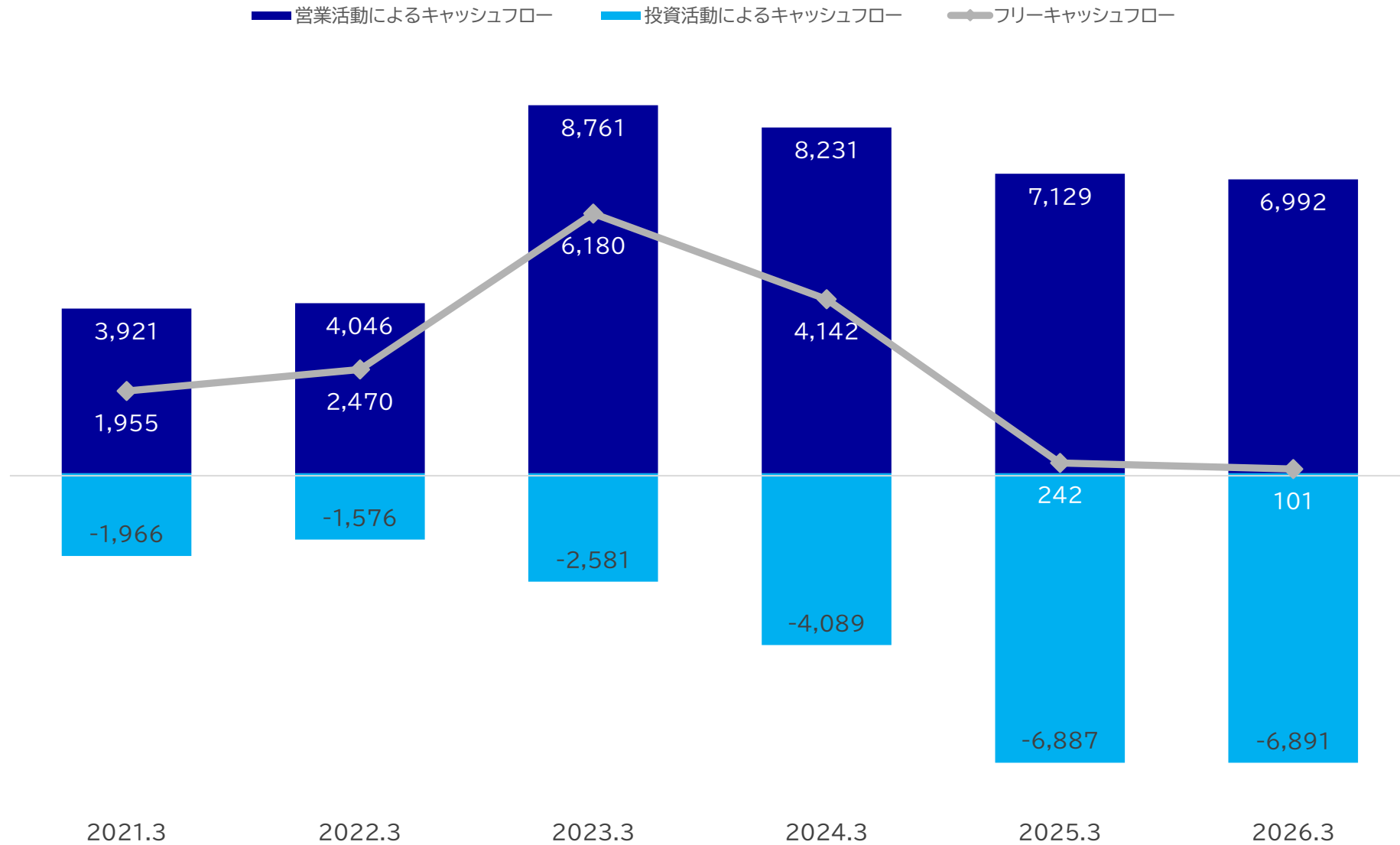
■ Energy Saving Solution ■ Semiconductor ■ Digital Communication ■ Life Science



※棒グラフの上の数字はセグメントの営業利益の合計であり、棒グラフの高さとは一致していません。

キャッシュフロー

(単位: 百万円)



決算総括

➤ 販売管理費

(単位: 百万円)

2025/3期	2026/3期	差異
12,183	13,190	+1,007

- 労務費 +439百万円
- 研究開発費 +196百万円

➤ 営業外損益

(単位: 百万円)

2025/3期	2026/3期	差異
158	318	+160

2026/3期実績

- 受取利息 195百万円(2025/3期 398百万円)
- 為替差益 167百万円(2025/3期 為替差損 259百万円)

A large blue rectangular frame surrounds the central text. To the top-left of the frame is a smaller blue square. To the bottom-right of the frame are three overlapping blue squares of varying sizes, arranged in a descending staircase pattern.

中期経営計画 -2nd roll-

振り返り -1st roll-

中期経営計画 -1st roll-(2025年4月公表値)

財務目標は想定を大幅に上回る進捗率

財務目標	2026年3月期 期初目標※	2026年3月期 実績	2028年3月期 目標
売上高	40,000百万円	42,540百万円	50,000百万円
営業利益	4,700百万円	6,164百万円	8,000百万円
ROE	5.8%	8.9%	9.0%以上

※為替と米国追加関税の影響を除いた期初の業績見通し

中期経営計画 -1st roll-

非財務目標	指標	2023/3期	2024/3期	2025/3期	2031/3期 目標
重要KPI	新製品比率(3年以内に量産開始した製品)	56%	58%	55%	50%以上
人材	女性管理職比率(国内)	7.7%	6.6%	5.3%	15%
	海外拠点における管理職に占める外国人比率	66.3%	64.1%	64.4%	75%
	男性育児休暇取得率(国内)	17%	13%	100%	100%
環境	CO2排出量削減(scope1・2)2024/3期比	21,236t-CO2	18,515t-CO2	11%削減 (16,396t-CO2)	40%削減 ※2033/3期 目標
	樹脂材料廃棄率	3.6%	6.0%	3.6%	3%

AIの社会実装へのロードマップ

Phase 1. Buildout(構築)

AIインフラの構築



中計 -1st roll- で描いたロードマップ

Phase 2. Adoption(適用)

ヒト・企業・社会への採用・適用



Copilotによる生成画像

Phase 3. Transformation(変革)

大幅な生産性向上



Copilotによる生成画像

2025/1

2026-2027

Beyond 2030

AIインフラの構築

大幅な生産性向上

ヒト・企業・社会への採用・適用

現時点
(中計 -2nd roll-)



全てが
加速・前倒し

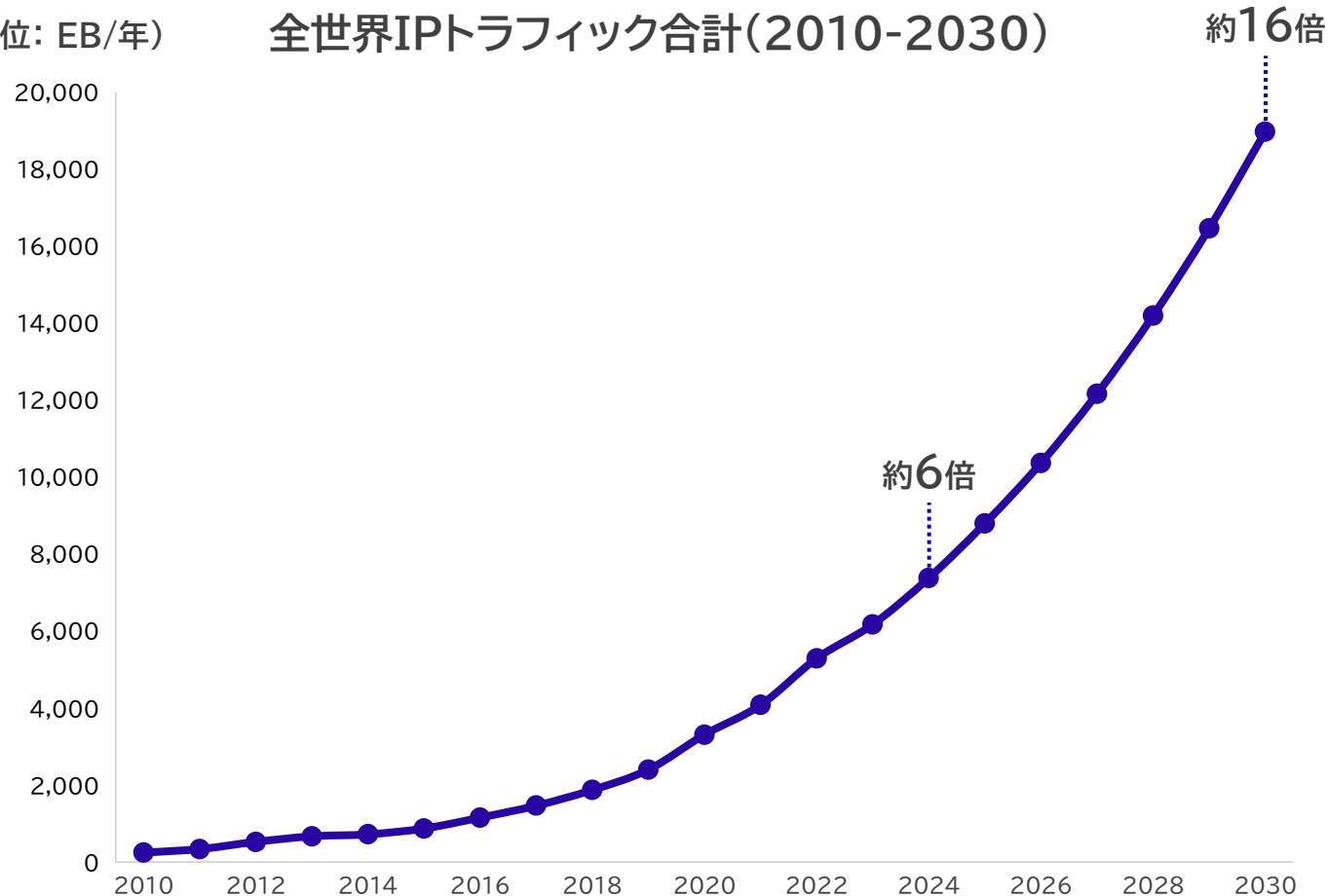
想定する未来像

止まらないデータトラフィック

AIの社会実装や人間社会の営みの変化がデータトラフィック量の増加として現れる。

(単位: EB/年)

全世界IPTラフィック合計(2010-2030)



Zettabyte Era

1.2 ZB

2016年のグローバル IP トラフィックは約 1.2 ZB

Internet traffic

約6倍

2016→2024で約6倍

2030 Forecast

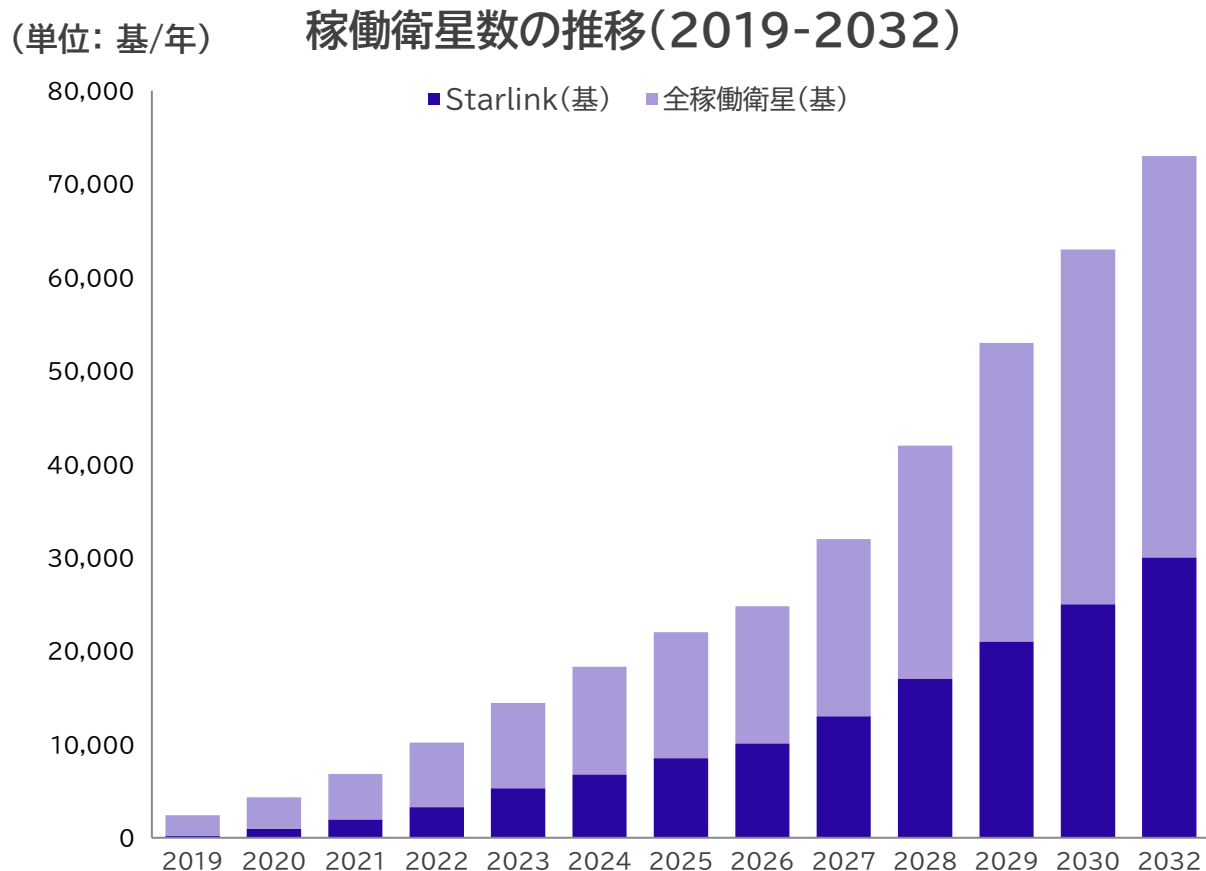
約16倍

2030予測:2016年比約16倍

想定する未来像

AIデータセンターは中央集中から宇宙・エッジへ

地上の大型データセンターに加え、低軌道衛星とエッジが新たなAI基盤として急拡大。



出典: 下記データよりエンプラス作成
[Statista](#) [ABI Research](#)

Edge

エッジ — 現場で処理するAI

自動運転・スマートファクトリー・ロボティクス

- 低遅延で判断
- 現場近傍に分散配置された小型データセンターの増加

Space

宇宙 — 軌道上AIデータセンター

Starlink・Amazon Kuiper

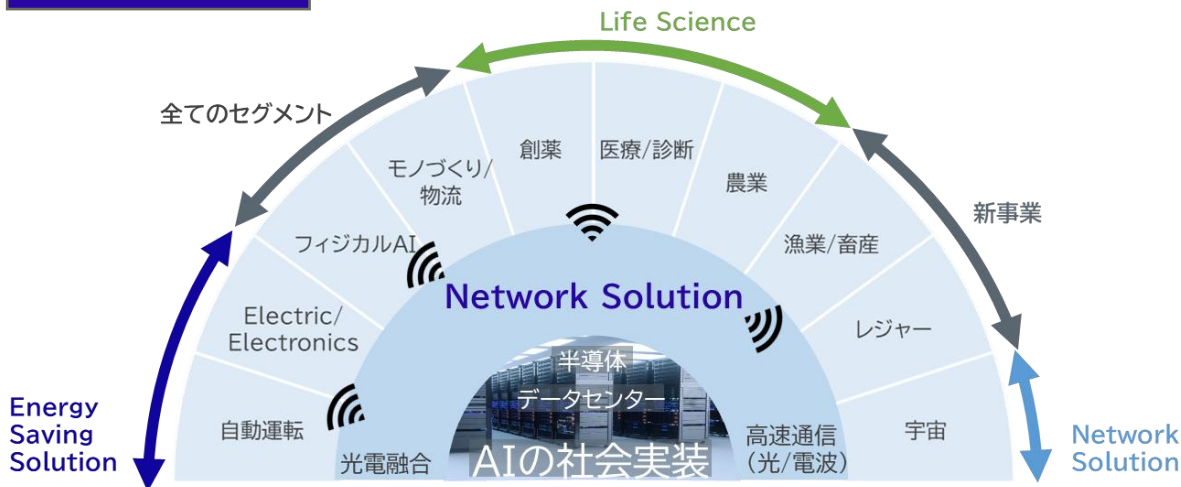
- 衛星本体のAI処理
- 衛星間光通信
- 地上～宇宙のデータ網

想定する未来像

事業機会のロードマップ

データトラフィック増大から逆算し、事業機会を読む。

- WHO** どのプレイヤーが
- WHAT** どのようなデバイスを
- WHERE** どこに配置し
- WHY** ボトルネック機能は何になるのか



当社の技術(強み)

メカニクス・オプティクス・エレクトロニクス・バイオロジー

- 幅広い要素基盤技術・要素展開技術・ブラックボックス
- ソリューションプロバイダー

Life Science



Energy Saving Solution



Digital Communication



Semiconductor



中期経営計画 -2nd roll-

長期ビジョン

エンプラスの企業理念

使命

独創的アイデアを総合技術で価値ある製品に変え、
より良い未来を支えます

長期ビジョン

Solution Provider to Maximize AI Performance

目的

我々はAIの社会実装に向けた、より良い明日を創ることに貢献する

2025/4/30に公表した長期ビジョン「Key Component Company for Essential Market」を下記の理由で変更

- 中長期で進むと考えていたAIの社会実装が加速している
- AIの社会実装に対して、効果を最大化するためのソリューションプロバイダーを目指す
- Essential市場や重要なプラスチック部品に限定する事なく、領域を広く捉えて伸ばしていく戦略に切り替える

中期経営方針(2027/3期-2029/3期)

ソリューションプロバイダーとして顧客価値を創出する

スローガン

One Enplas for Growth

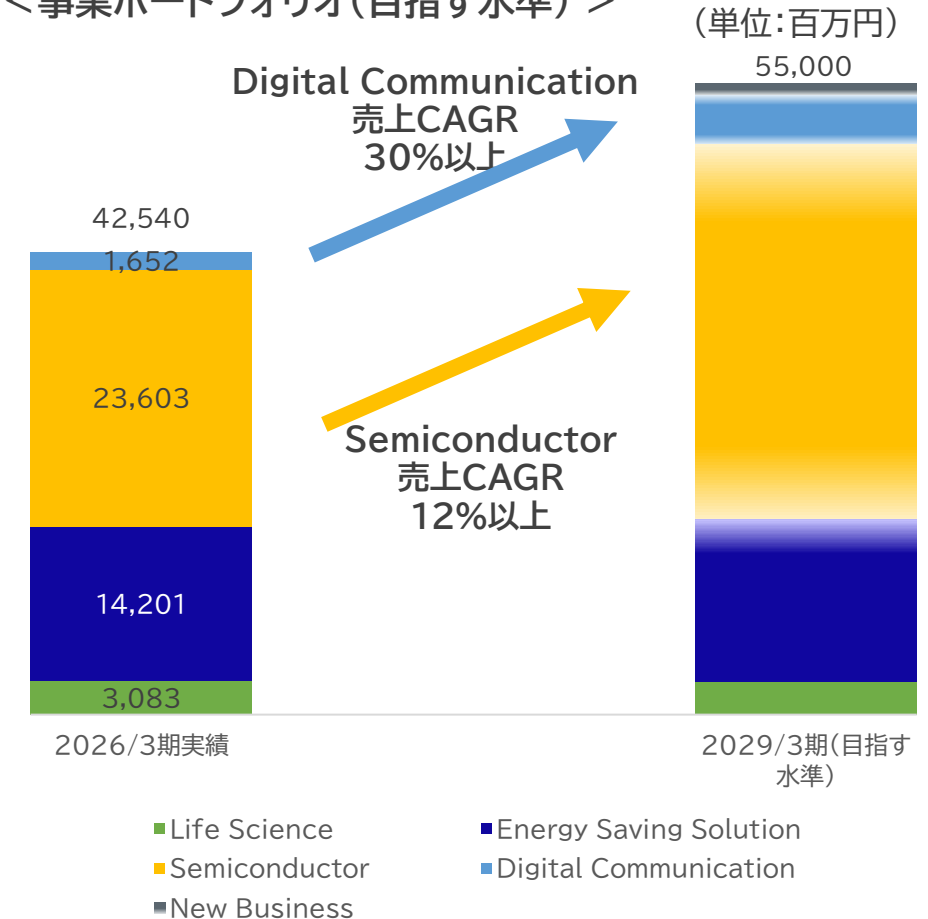
重点推進事項	詳細
① Semiconductor事業の成長/ 事業ポートフォリオの分散	<ul style="list-style-type: none"> 半導体市場の事業機会を確実に収益化 事業ポートフォリオを広げる投資加速
② イノベーションセンターによる顧客価値の創出	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションセンターでの需要の掘り起こし 顧客価値の創出と事業成長
③ 各事業の成長と事業領域の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ニッチトップと高付加価値化 事業戦略スライド(P33-36)で詳細説明
④ 成長分野への投資と、投資回収の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 先行投資の成果を着実に収益化し、フリーCF最大化を図る 成長領域へ経営資源を集中

2029年3月期 財務目標(中期経営計画 -2nd roll-)

主要財務目標として売上高、営業利益、ROEを掲げ、持続的な成長と企業価値向上を実現する。

	2025/3期 実績	2026/3期 実績	2029/3期 目標
売上高	38,069百万円	42,540百万円	55,000百万円
営業利益	5,287百万円	6,164百万円	10,000百万円
ROE	7.4%	8.9%	10.0%以上

<事業ポートフォリオ(目指す水準)>



中期経営方針に基づく重点推進事項

① Semiconductor事業の成長/事業ポートフォリオの分散

成長の加速 × 次の柱を育てる

Semiconductor事業の成長とポートフォリオ分散投資 — 相反ではなく両立

GROWTH

Semiconductor事業

サーバー・車載SoC・モバイル

- 成長率の最大化
- 成長を加速する投資(サプライチェーンの多様化、テスト事業化への投資)

PORTFOLIO

次の10年の柱を育てる

Semiconductor事業偏重リスクを直視

- イノベーションセンターによる需要掘り起こし
- 研究開発への継続投資

Physical AI Device Solutions:米国 西海岸

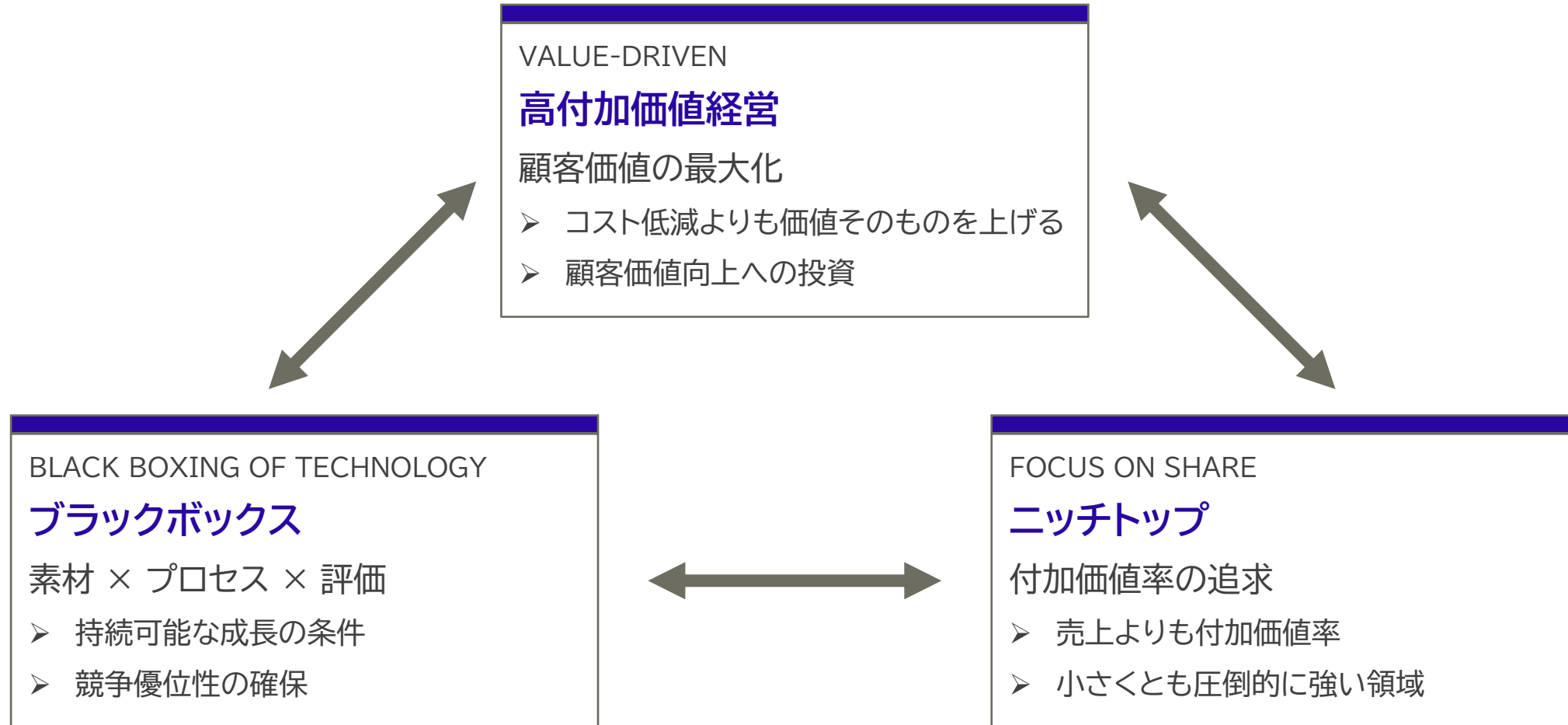
- Physical X AI の事業機会に対するマーケティング
- センサー/熱/通信/ロボティクス/イメージング/検査/農業...

AI&ロボティクス研究室:京都

- 日本のロボティクス技術の第一人者と共同開発
- 最先端のAI&ロボティクス技術の開発

① Semiconductor事業の成長/事業ポートフォリオの分散

攻めと守りを両立させる3つの軸



②イノベーションセンターによる顧客価値の創出

イノベーションセンター = 需要そのものを掘り起こす

顧客の困りごと・アイデアを引き出し、価値を創出する場



需要掘り起こしのループ

技術のバリエーションを提示

素材・プロセス・形状の可能性を、現物で体感

アイデアのディスカッション

顧客から困りごと・アイデアを引き出す

試作・検証・評価





評価(バリデーション)まで含めて一体で提供

顧客価値の創出

顧客価値を上げ、変化に強い事業を創出

③各事業の成長と事業領域の拡大

AIの社会実装に向けた事業機会を最大限に獲得するために各事業が事業領域を広げ、BUを細分化し、それぞれが**ニッチトップ・高付加価値化**を目指す。

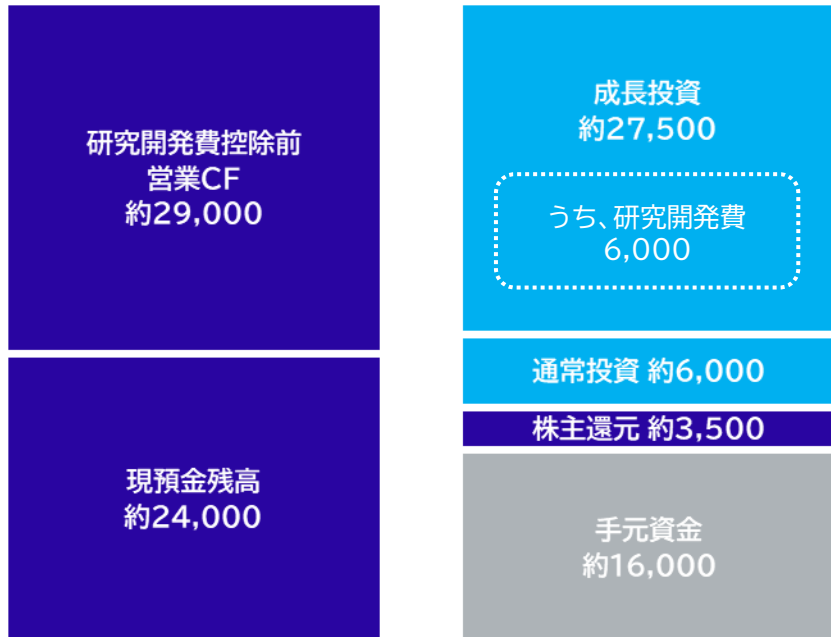
セグメント	市場環境	外部環境/事業機会	事業戦略
Semiconductor (成長領域)	 CAGR: 9.6% (2026-2030)	<ul style="list-style-type: none"> AI半導体投資が続く中で、市場成長を確実に取り込み、事業機会の最大化を目指す AI ASICの事業機会拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 成長市場の取り込みと新領域への参入
Digital Communication (成長領域)	 CAGR: 10.6% (2025-2030)	<ul style="list-style-type: none"> 大規模データセンターの課題解決(熱、故障、互換性)への貢献 データセンター関連の新領域の成長 将来の光電融合に向けた事業機会獲得 	<ul style="list-style-type: none"> データセンター内の光学関連と光電融合の事業機会獲得 Display市場のシェア拡大
Energy Saving Solution (安定領域)	 CAGR: 3.5% (2025-2030)	<ul style="list-style-type: none"> 中東情勢の影響が懸念されるものの、緩やかな成長を期待 	<ul style="list-style-type: none"> ギヤソリューションビジネスの推進とElectric / Electronics領域の開発推進
Life Science (安定領域)	 CAGR: 6.5% (2025-2031)	<ul style="list-style-type: none"> 市場は緩やかな成長が続く 長期的には創薬、診断、医療 	<ul style="list-style-type: none"> 事業領域の拡大と新領域の探索

④成長分野への投資と、投資回収の徹底

中期経営計画期間(2027/3期-2029/3期)に創出する営業CFと手元資金をベースに、企業価値向上・成長戦略の実現に向けて、研究開発費を含む成長投資として27,500百万円、通常投資として6,000百万円、株主還元として3,500百万円を確保する。
 また、事業成長の加速、顧客価値創出、高付加価値経営を実現する人材への積極投資を継続する。

キャッシュ・アロケーション
 (2027/3期-2029/3期)

(単位:百万円)



成長投資:

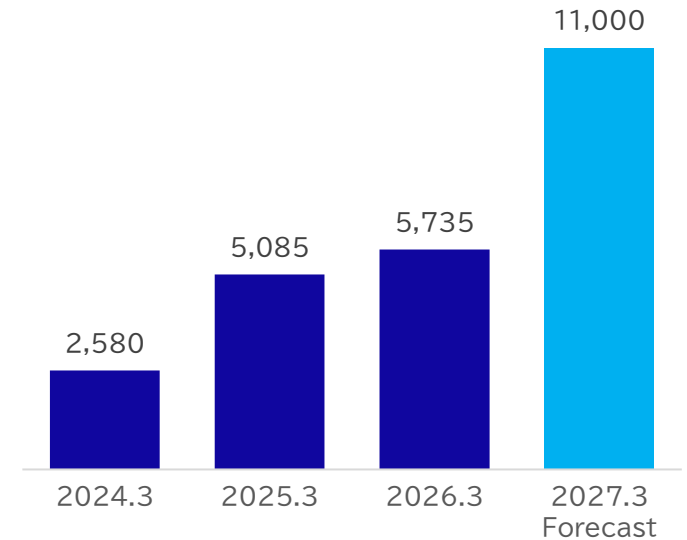
イノベーションセンター:7,000百万円
 ITシステム投資 :3,000百万円
 戦略投資 :11,500百万円
 (うち5,000百万円はSemiconductor事業の
 サプライチェーンの多様化、テスト事業化への投資)

株主還元:安定配当の方針

2027/3期-2029/3期:配当性向20%を考慮
 ※自己株式は発行済株式総数の5%以下を目安に消却

成長投資※

(単位:百万円)



※成長投資:長期投資・環境投資、成長分野への投資の合計

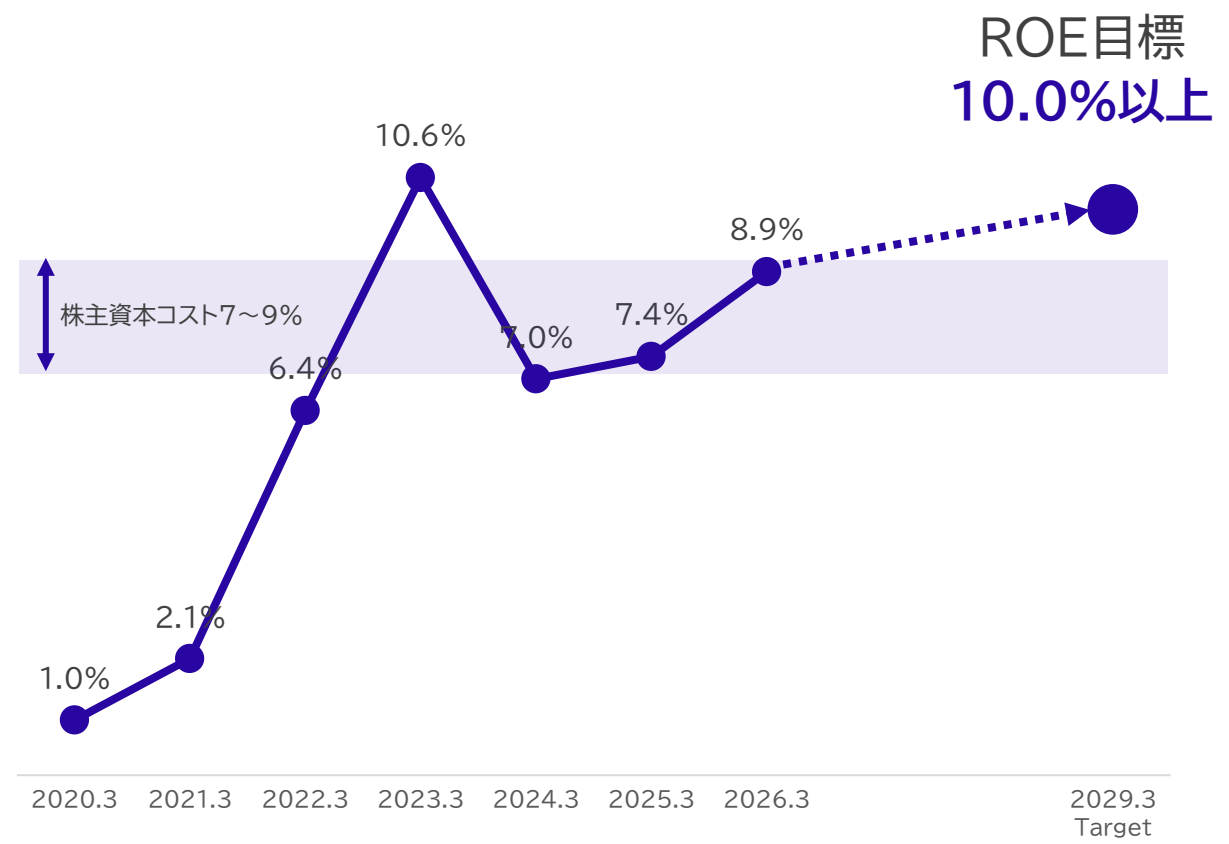
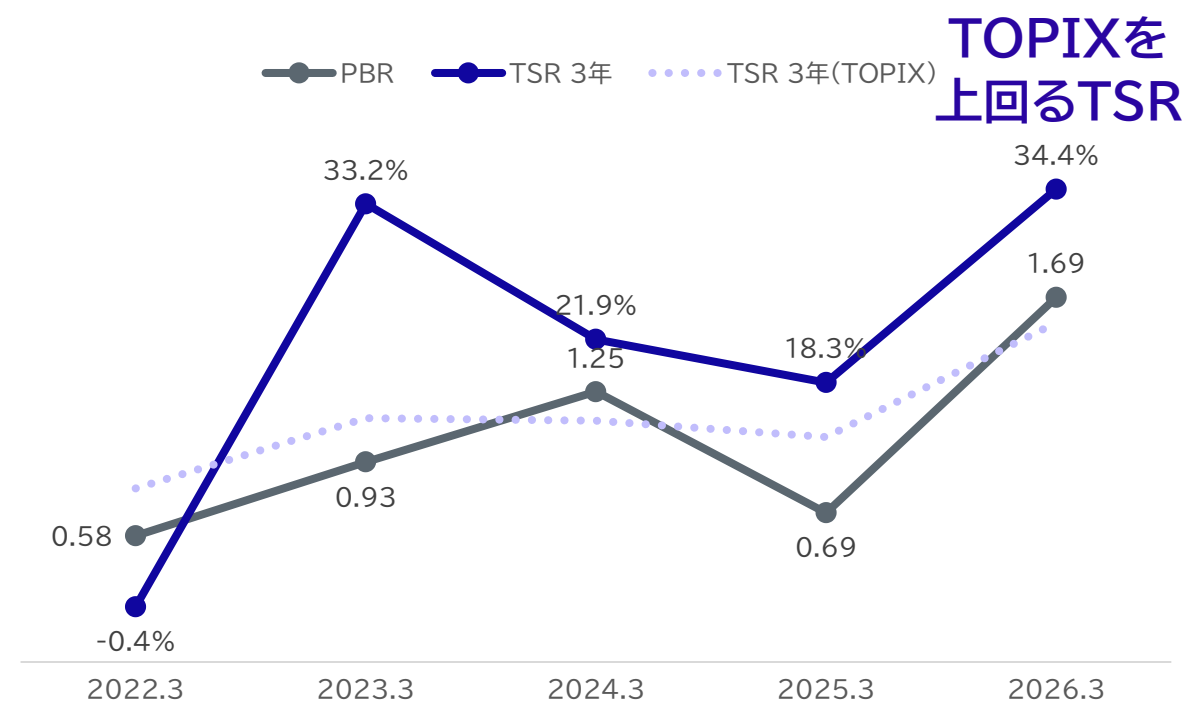
④成長分野への投資と、投資回収の徹底

-資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗状況

- ソリューションプロバイダーとして顧客価値を創出する事で、持続的な成長と企業価値向上を実現し、**中期経営計画の期間でROE10%以上**を目指す
- 株主資本コストは中長期的に7~9%以上のレンジになる可能性を想定し、更なるROE向上を目指す

実施施策

- 先行投資の成果を着実に収益化し、フリーCF最大化を図る
- 成長領域へ経営資源を集中



事業戦略

Semiconductor事業

長期ビジョン

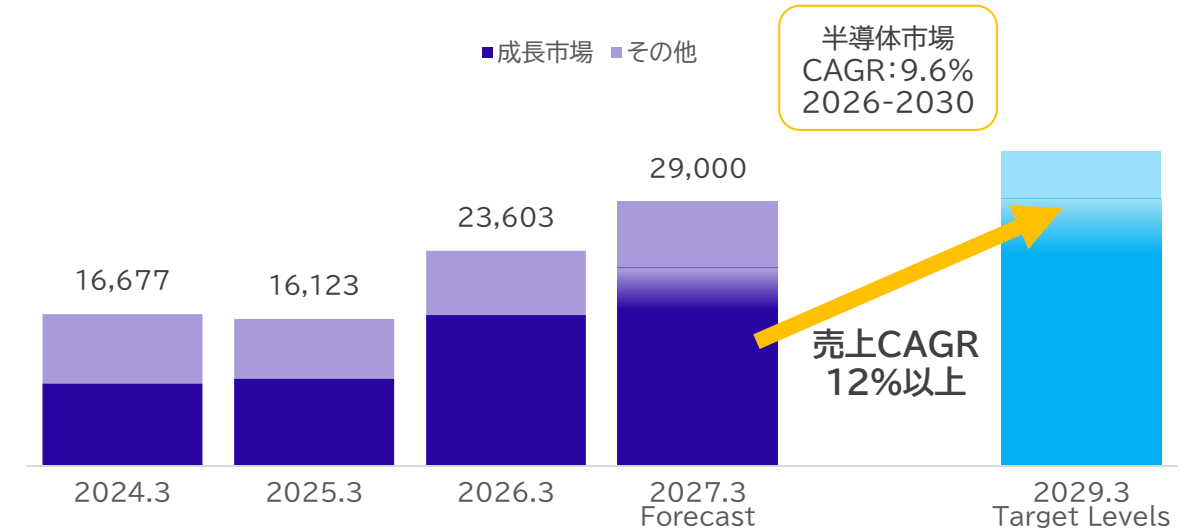
Key Test Solution Company for Semiconductor Market

事業の重点推進事項

成長市場の取り込み (バーンイン)	<ul style="list-style-type: none"> 成長市場(AIサーバー・汎用サーバー・車載SoC・モバイル)での事業拡大 ハイパースケーラー向けASIC関連の量産受注拡大
新領域への参入 (テスト)	<ul style="list-style-type: none"> 成長するシステムレベルテスト(SLT)領域への参入
サプライチェーン強化	<ul style="list-style-type: none"> 事業環境の変化に柔軟に対応するサプライチェーン構築

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典: Statista

<https://www.statista.com/outlook/tmo/semiconductors/worldwide#revenue>

非財務目標水準

- バーンインは成長市場の売上比率75% → 85%(2029/3期)
- テストはSLT市場シェア25%獲得(2031/3期)

Life Science事業

長期ビジョン

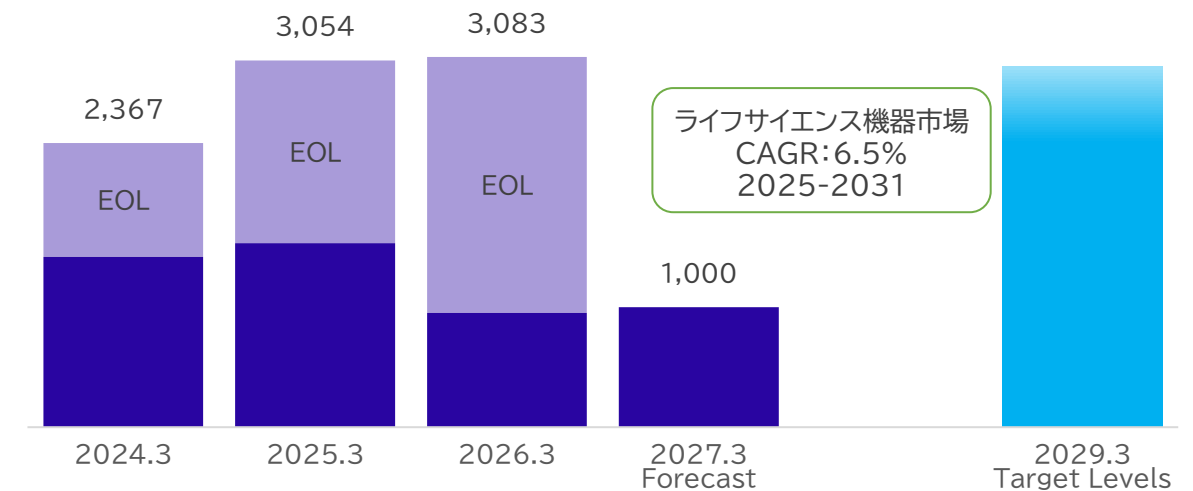
事業領域を広げ、ソリューションビジネスへの変革を進める

事業の重点推進事項

事業領域の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 良質な顧客ネットワークを活用し、マイクロ流路チップ領域での新用途開発を推進
新領域の探索	<ul style="list-style-type: none"> 新領域(医療・診断・創薬・農業等)での研究開発を進め、事業化を推進

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典: 株式会社SEMABIZ
<https://semabiz.co.jp/mnmast4499/>

非財務目標水準

- 米国および日本での試作ビジネスの拡大

Digital Communication事業

長期ビジョン

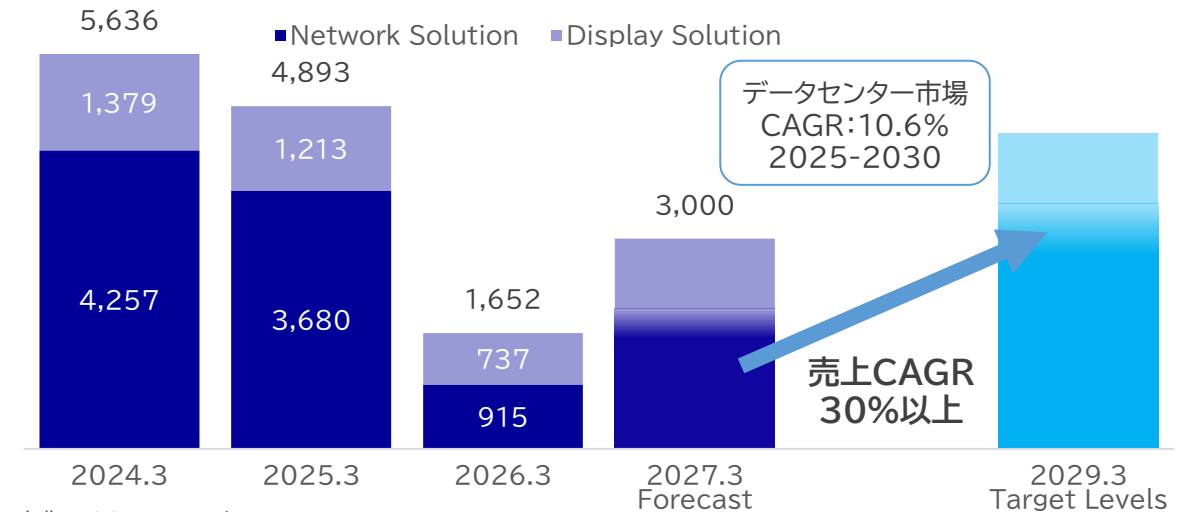
加速するAI市場に新たな価値(新機能、新製品)を提供し、事業機会の最大化を目指す

事業の重点推進事項

<p>Network Solution (光通信関連)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 光トランシーバー用レンズのみならず、データセンター内の光学関連に事業領域を拡大 将来の光電融合に向けた事業機会獲得(3.2Tや6.4T向けCPO関連部品の開発進捗、サンプル出荷)
<p>Display Solution (LED用拡散レンズ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 光束制御技術(混色と広角性能の両立・組立性の向上・薄型の実現)を軸にDisplay市場のシェア拡大

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典: BCC Research
<https://www.bccresearch.com/market-research/information-technology/data-centre-market.html>

非財務目標水準

- Network Solution: 事業領域拡大
- Display Solution: ハイエンド、ミドルエンド、ボリュームゾーンでのシェア獲得

Energy Saving Solution事業

長期ビジョン

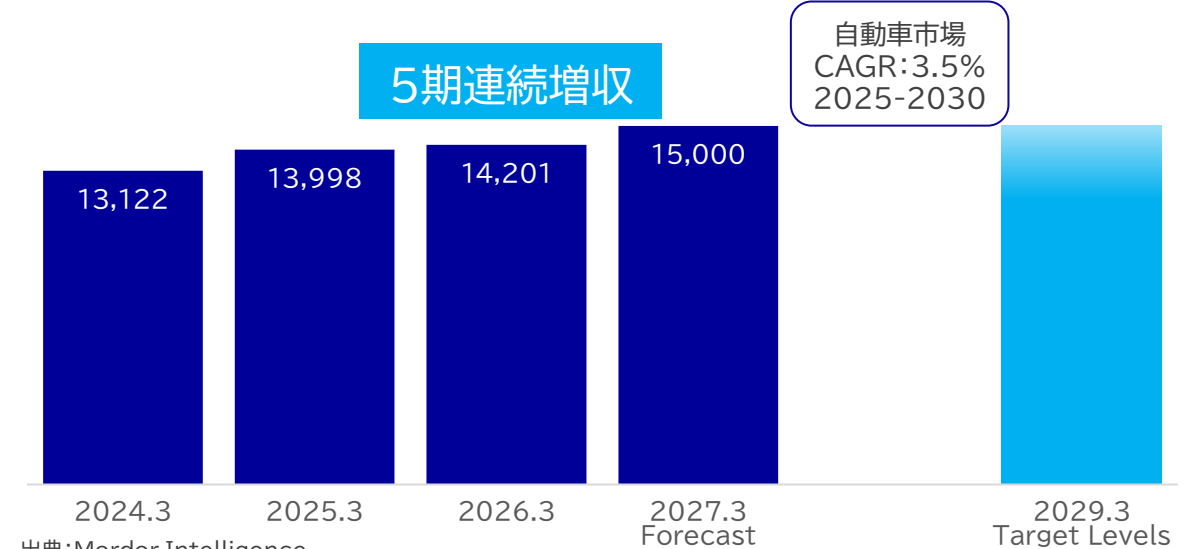
Eco市場において価値を創造し、より良い明日を創ることに貢献する

事業の重点推進事項

ギャソリューション ビジネス	<ul style="list-style-type: none"> 世界No1のギャソリューションプロバイダーを目指しビジネスモデルを変革 自動車の電装化に対応した低騒音・高効率ギャソリューションビジネスを推進
Electric / Electronics領域	<ul style="list-style-type: none"> Electric / Electronics領域における新商材の開発推進
既存製品の収益力 強化	<ul style="list-style-type: none"> 新しい生産技術を用いた既存製品の高付加価値化

2029/3期 売上(目指す水準)

(単位: 百万円)



出典: Mordor Intelligence

<https://www.mordorintelligence.com/industry-reports/global-automotive-market>

非財務目標水準

- ギャソリューションビジネスの売上比率70%(2031/3期)
- Electric / Electronics領域の売上比率10%(2031/3期)

2027年3月期 連結業績見通し

2027年3月期 連結業績見通しの前提

連結業績

- 事業計画レート(US\$):150円
- 成長投資加速、積極的な人的投資による販管費の増加(2026/3期:13,190百万円 → 2027/3期:15,800百万円)
 - ✓ Semiconductor事業への投資に伴うコスト増:1,000百万円(サプライチェーンの多様化、テストの事業化)
 - ✓ イノベーションセンター稼働に伴う償却費等の増加:700百万円(一時的な費用増400百万円)
 - ✓ ITシステム稼働に伴う償却費等の増加:800百万円
 - ✓ Physical AI Device Solutions、AI&ロボティクス研究室等への戦略投資:500百万円
- 中東情勢リスクの影響は精査中であり、現時点では織り込まず

Semiconductor	<ul style="list-style-type: none"> • サーバー、車載SoCが好調、前期比大幅増収の見通し • AI用サーバー向けは大手GPUメーカーに加えて、ハイパースケーラー向けのASIC関連の案件が増加の見通し • 車載SoCはシェア拡大による好調が続く見通し
Life Science	<ul style="list-style-type: none"> • 前期の一部量産品の生産終了に伴い低調が続く見通し
Digital Communication	<ul style="list-style-type: none"> • Network Solutionは新規製品の量産寄与により増収の見通し <ul style="list-style-type: none"> ✓ AI用途等のハイエンド領域における次世代製品(1.6T光トランシーバー用レンズ)の量産開始 ✓ レンズコネクタ関連の新規製品は1Q量産開始の見通し
Energy Saving Solution	<ul style="list-style-type: none"> • 自動車市場は緩やかな成長、プリンター市場は緩やかな減少を想定 • 電装化に対応した低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスの拡大により増収の見通し

2027年3月期 連結業績見通し

(単位: 百万円)

	2026/3期	2027/3期	
	実績	上期計画	通期計画
売上高	42,540	24,300	48,000
売上原価率	54.5%	53.0%	53.7%
営業利益	6,164	3,900	6,400
営業利益率	14.5%	16.0%	13.3%
経常利益	6,482	3,950	6,500
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,233	3,000	5,000
1株当り当期純利益	587.90円	332.16円	553.60円
配当金	90.00円	45.00円	90.00円

2027年3月期 セグメント別売上見通し

(単位: 百万円)

	2026/3期	2027/3期	
	実績	上期計画	通期計画
Semiconductor	23,603	15,200	29,000
Life Science	3,083	500	1,000
Digital Communication	1,652	1,100	3,000
Energy Saving Solution	14,201	7,500	15,000

参考:2027年3月期 設備投資・減価償却・研究開発の見通し

(単位: 百万円)

	2026/3期 通期実績	2027/3期 通期
設備投資	7,091	13,000
長期投資・環境投資	3,796	7,000
成長分野への投資	1,939	4,000
その他の設備投資	1,356	2,000
減価償却	2,390	3,000
研究開発	1,698	2,000

株式会社エンプラス 決算説明会

中期経営計画説明会

<https://www.enplas.co.jp/>

(東証プライム 6961)

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。